地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その79

文：田崎 敬修

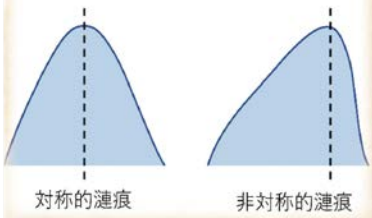
西会津地域が内湾だった頃の海底に残された波跡

西会津町大字束松地内で昭和53年(1978)、林道建設工事をしていた時、道路西側法面に幅60 m・高さ15 m、53度東に傾斜した漣痕（リップルマーク）が現れました。漣痕とは地層が形成される時に堆積物の上を流れる水流・波や風によって作られる微地形で、地層の表層に規則的な峰と谷からなる波形模様です。水流や波による場合は砂質の水底に、風による場合は砂丘表面などにできます。

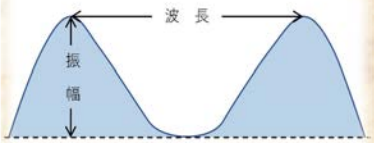
当地の漣痕は水底にできたもので、この付近に分布する塩坪層（800万年±200万年前）の最上部に形成された大規模な漣痕の露頭です。塩坪層は日本列島が隆起し、海域がしだいに後退していた時代に、まだ会津盆地西域の西会津地域が内湾だった頃の浅い海（会津地域最後の海）（図1）に堆積した地層です。海底にできる漣痕は海水の流れの種類（水流が前後に動く・一方向に動く）・水流の速さ・海底の砂などの粒度組成・水深などに関連してさまざまな形のものがつくられますが、峰の形から対称的漣痕と非対称的漣痕の2種（図2）に分けられます。前者は漣痕の峰がどちら側も同じ形をしているのに対し、後者は峰の形が両側で違っています。一般的に峰の形が対称的なものは前後に動く波によってつくられ、非対称的なものは一方向に流れる水流によってつくられると考えられています。この漣痕は細礫を含む凝灰質砂岩の表面にできており、波長（峰から次の峰、または谷から次の谷までの距離）が50～100㎝、振幅（谷から峰までの高さ）（図3）が10㎝前後と比較的大きく、非対称の波形をしていることから一方向に流れる水流によってつくられたと考えられます。

（図1）会津最後の海（内海）の時代（800万年前頃）

（図2）



（図3）



この漣痕表面のすぐ下に珪化木（地中に埋没した木が珪化した化石）があり、内湾の多少塩分の低い海域に多く生息するフナクイムシの棲み跡が見つかっています。フナクイムシが定着・穿孔に好適な水温は25℃前後という研究と塩坪層上部から温暖地性の落葉広葉樹に混じって常緑広葉樹の植物化石が産出していることから当時の気候は温暖だったことが分かります。漣痕層の一部が剥離したりしていますが、会津地域に最後まで残っていた海域の古環境を知る上で学術的に非常に貴重な露頭です。

（参考文献：西会津町史・別巻1（自然）、会津若松市史13（会津の大地））

お詫びと訂正

10月号12ページのタイムスケジュール内「のんちゃん歌謡ショー」は「のりちゃん歌謡ショー」の誤りでした。お詫びして訂正します。

今月の表紙

今月は、9月16日に行われたこゆりこども園運動会から。練習したダンスを披露する園児たちの笑顔が衣装に負けないくらいキラキラと光って見えました。

（8ページから関連記事）

編集後記

11月号も読んでいただきありがとうございました。広報紙の担当になり、あっという間に半年以上経ちました。手に取りたくなる、読みやすい紙面を目指していますが、まだまだです。町民の皆さんのご意見や感想も聞かせていただけると嬉しいです。

（伊藤）

にしあいづ
広報にしあいづ №781　令和5年11月号
発行／福島県西会津町　編集／企画情報課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/
PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。